写真1. 桜島昭和火口噴火（2006年6月14日）

2006年6月14日12時14分頃の昭和火口における噴火。2006年6月4日に昭和火口において58年ぶりに噴火活動が再開し，6月20日ごろまで噴火活動は断続的に繰り返された。噴煙は上空1km以上に達することもあったが，比較的穏やかな噴火活動であった。地震動，空気振動はほとんど検知されなかった。南岳から約4km東にある黒神分室から為栗健撮影。

写真2. 桜島昭和火口噴火（2007年5月24日）

2007年5月24日10時19分の昭和火口における噴火。2006年6月の噴火活動から約11か月後の2007年5月16日から噴火活動が再び繰り返された。5月19日ごろからは夜間において火映が観測されるようになった。この噴火の空振は3.5Paと微弱であったが，噴煙は南岳の上空約1kmに達し，噴石は昭和火口周辺に落下した。右側の大きい火口が南岳山頂火口である。鹿児島県防災ヘリから横尾亮彦撮影。

写真3. 火砕流の発生を伴った桜島昭和火口噴火（2008年2月6日）

2008年2月6日11時25分の火砕流を伴う昭和火口における爆発的噴火。火砕流本体は昭和火口から約1.3kmの距離まで達した。2008年2月3日にも同様な爆発的噴火が発生した。2008年2月の爆発的噴火に伴う地震動，空気振動は2006年，2007年の噴火活動に伴うものより大きく，噴石も遠くまで達した。1.3kmの距離において停止した火砕流から分離した噴煙が写真中央の鍋山の上に見える。NHK鹿児島放送局が設置したテレビカメラの信号を分岐して収録。

写真4. 昭和火口から流下した火砕流（2008年2月6日）

2008年2月6日11時25分の爆発的噴火に伴う火砕流の堆積状況。火砕流は昭和溶岩流に沿って流下し，5合目の平坦部で拡大した。2008年2月3日の火砕流よりも300m程度延びている．鹿児島県防災ヘリから高山鐵朗撮影。